

放射線科（放射線診断科、放射線 I V R 科、放射線治療科）

医療における画像診断は、各種モダリティーの進歩、医療の質・医療安全への関心の高まりなどや医療行為の内容変化、複雑化に伴いその汎用性、重要性が増しています。

画像診断学の基礎を研修医時代に学ぶことは、将来どの診療科に従事するとしても有益と思われます。画像診断の的確な適応を学び、最短距離での正しい診断への到達を目指しましょう。

また将来は研修医である皆様が主体となり中央サービス部門である放射線科を利用し、放射線技師や看護師と協力して検査や手技を間接的あるいは直接的に遂行する必要があります。各部門がどのように検査に関与しているか認識し、将来の診療（特に緊急時検査や救急医療対応など）に役立ててください。

1 研修目標

（１）一般目標

放射線診断学に関する的確な検査適応、基本的な画像診断知識を取得すること。

（２）行動目標

- ① CT、MRI、RI 検査に立ち会い検査適応や内容を理解すると共に、必要なら造影剤静脈注射を行う。
- ② 各検査の画像診断読影法の基本を学ぶ。
- ③ 臓器別、疾患群別に代表的な疾患の画像診断を Teaching File を用いて把握する。
- ④ 実際に読影を行い、チェックを受けた後に読影報告書を作成する。
- ⑤ IVR 手技を実際に経験する。
- ⑥ 症例の画像診断を他の人に分かり易く説明できるようにする。

（３）学習方略

	行動目標	方法	場所	担当者
1	①	実習、実地診療	CT、MRI 室など	指導医、技師、看護師
2	② ③	ティーチングファイル 画像診断教科書	読影室	指導医
3	④	実習、実地診療	読影室	指導医
4	⑤	実習、実地診療	血管撮影室	指導医
5	⑥	カンファレンス	読影室	指導医

2 研修方法

期間は１～２か月間とし、血管内治療や穿刺（ドレナージや生検）など IVR 手技も経験する。

放射線治療については放射線治療医が対応可能な日時など相談のうえで研修とする。

3 研修責任者

放射線診断科 部長 小池 繁臣

放射線 IVR 科 部長 松井 青史

4 研修指導医

放射線診断科 部長 小池 繁臣

放射線診断科 副部長 永田 延江

5 評価

研修中に随時評価を行い、指導医から研修医に対する指導を行う。